

磯の生き物

満潮線と干潮線の間が「潮間帯」で、潮が引いた時、私たちが生物を簡単に観察できる場所です。

潮間帯は上から高潮帯、中潮帯、低潮帯と分けられています。高潮帯の上を潮上帯（飛沫帯）と呼んでいます。潮間帯の上部ほど干出している時間が長く、熱さ、寒さ、乾燥など生きものにとって棲息環境の厳しい場所です。

潮上帯（飛沫帯）

アラレタマキビガイやタマキビガイが見られます。これらの貝は水が嫌いで、ビーカーに汲んだ海水中に入れると逃げ出します。

高潮帯

イワフジツボが群棲しています。イワフジツボは貝の仲間ではなく、エビ・カニに近い節足動物の仲間です。生まれた時は海の中を泳いでいるのですが、時期が来るとセメント質の物質で岩に体を固定し生活します。岩の割れ目にはカメノテも見られます。カメノテも貝ではなく、節足動物の仲間です。イワフジツボやカメノテは、波が打ち寄せて来ると蔓脚（まんきやく）と呼ばれる触手を殻から出して、海水中のプランクトンを捕まえて食べます。

中潮帯

黒色をしたクロフジツボが見られます。岩の窪みにはヒザラガイが見られます。ヒザラガイは貝殻がいくつにも分かれ、体節があった進化の名残を見ることができます。

低潮帯

イボニシや体に砂粒や貝殻の破片等を付けたヨロイイソギンチャクが見られます。

またムラサキイガイやダイダイイソカイメンが岩にべったり張り付いています。



ヨロイイソギンチャク

伊良湖岬の生き物調べ

2019年7月15日(月)



カメノテ



イワフジツボ



アラレタマキビガイ



ベッコウガサガイ



クロフジツボ



ムラサキイガイ



イボニシ



ダイダイイソカイメン



中央の岩はなぜここに？
まわりの岩と色が違う

NP0 法人 東三河自然観察会

伊良湖岬の海岸植物



ハマナデ シロ



イワダ レソウ



アゼ トウナ



コオニユリ



ハマボ ッス

砂浜に生える植物

砂浜に深く根を張り、地下茎を巡らせて砂丘を形成する植物たちを、海浜植物と呼びます。汀線から浜の奥へと、植物が変わっていきます。



テリハノイパ ラ



ハマコ ウ



ハマヒルガ オ



ネコノシタ



コウボ ウムギ



ハマニガ ナ